

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

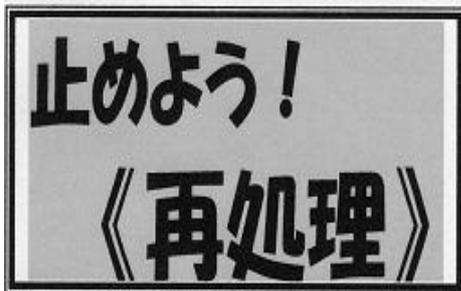
郵便振替 02240-5-102650

《再処理／岩手の環境》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



《天恵の海》

2009(平成21)年

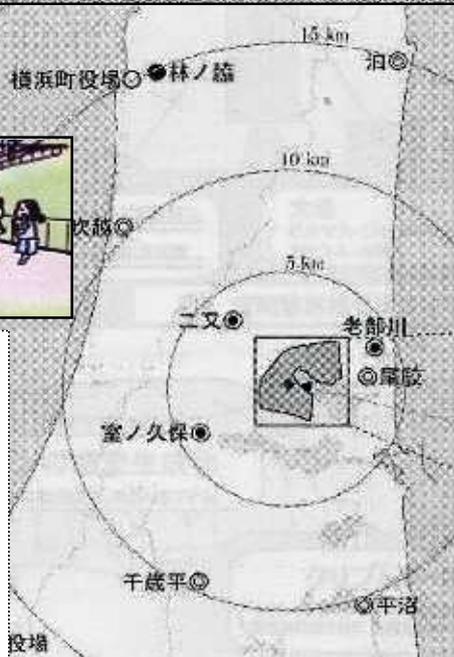
11月 15日

第78号(第2版)

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

放射能の「雲」が降りてきた!



アクティブ試験期間のうち使用済み核燃料せん断作業を行ったのは一五〇日。そのうち再処理工場周辺のモニタリングステーションのいずれかでクリプトン85の降下が測定されたのは九七日。青森県が公表した測定値は、工場とその周辺地域に『放射性の雲(ブルーム)』が絶えず降下していたことを示していました。『岩手の会』ではこの事実をまとめ、東京で開催された『NO NUKES FESTA 2009』集会の分科会で発表しました。

公表のモニタリングステーションの記録 「せん断作業の一五〇日のうち九七日も クリプトン85が測定された」

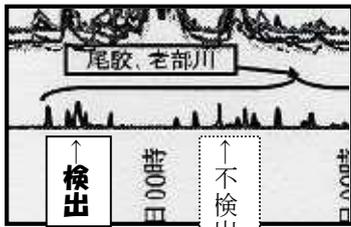
上図(主排気筒からのクリプトンの流れ)と右図(モニタリング地図)は青森県発行『原子力施設環境放射線調査報告書・平成二〇年度版』348〜9頁から。「青森県ホームページ」人物イラスト 二編は編集部。

「飛距離の短いベータ線を感じ」の意味
クリプトン85は飛距離

使用済み核燃料のせん断は二〇〇六年四月一日から開始され二〇〇八年一〇月二日で終了しました。この間せん断日数は一五〇日でした。そのうち周辺地域のモニタリングステーション八局のいずれかでクリプトン85が検知された日は九七日でした。これはせん断日の約六五％になります。工場敷地内のモニタリングポスト九地点でクリプトン85が検知されていた日数は一〇九日でした。これはせん断日の約七三％になります。

「原子力施設環境放射線調査報告書・各年度版」の分析
「岩手の会」報告
(報告者・永田文夫)
アクティブ試験中のせん断日と周辺のモニターでクリプトン85の放射能を測定した日との関係について、青森県発行の「原子力施設環境放射線調査報告書」の各年度版を詳しく調べてみました。
使用済み核燃料を
せん断した日

「原子力施設環境放射線調査報告書・各年度版」の分析
「岩手の会」報告
(報告者・永田文夫)



九月二六～二七日部分 拡大図

原燃は、クリプトン85によるβ(ベータ)線が「2000Bq/m³以上が1時間継続した時」を「検出」としている(青森県同調査報告書の説明文)。すなわち「平常値の1000倍」まで達しない場合は「不検出」として扱う。

小辞典「クリプトン85」

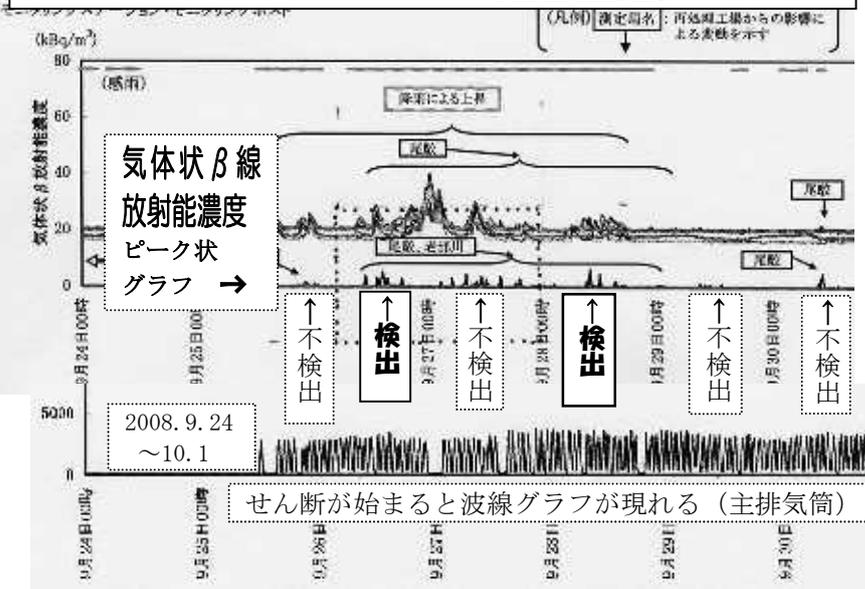
クリプトンは無色無臭の気体で、周りの物質とほとんど化合しない、不活性な「希ガス」の一種。クリプトン85は、核分裂で生成され、β(ベータ)線とごく一部γ(ガンマ)線を放出しながら崩壊する。半減期は10.8年。地球上にはごく微量にしか存在しなかったが、人間による核実験や再処理、原発から多く生成され、その量は1989年までに約330京ベクレルと推定される。現在の大気には1m³あたり約2ベクレル程度存在すると推定されている。

の短いベータ線を放出する核種であり、降下してきた放射能の目に見えないガスがベータ線検知器内に入らなければ検知されません。したがって、その測定点までプルーム(クリプトンガスの固まり)が確実に降下してきたことを証明していることとなります。

クリプトン85は、核分裂で生成される放射性の希ガスで、そのガスが工場や周辺地域に漂った事は皮膚ガンなどの原因となる心配があります。排気筒からは、さらにトリチウム、炭素14、ヨウ素129などの有害な放射性物質が放出されており、周辺地域の人々の健康被害が憂慮されます。

工場周辺のモニタリングステーションの記録

「同調査報告書」337頁から



モニターが感知しても「不検出」の不思議

上の表の一番下の波グラフはせん断がなされる度に現れる主排気筒モニターのクリプトン85の量をあらわしています。この放出を監視している周辺モニターのグラフは真ん中の「ピーク状グラフ」です。左目盛りの「気体状β線放射能濃度」に注目してほしいのですが、目盛りが小さすぎるので一部拡大すると、左最上図のようになります。昨年の例では、九月二六～三〇日の毎日にクリプトン85を、モニターが明瞭に感知しています。しかし、青森県が「検出」とした日は二六日(尾駁一五時)と二八日(尾駁一〇時)の二日のみです。

平常値の千倍以上にならないと「不検出」

これはおかしな話です。青森県の監視委員会に提出された同資料の脚注には、「β線が2000Bq/m³以上が1時間継続した時」が「検出」と記されています。現にピークが出ているにも係わらず「平常値」の千倍以上にならないと「検出」扱いにしないと、わざと放射性ガスを見

逃していると言わざるを得ません。

せん断する度に襲ってくる放射能の「雲」

毎月の数値を実際に点検してみました。

工場周辺のモニタリングステーションの測定値から

- 二〇〇六年度
 - せん断日数五四日
 - ベータ線検出日三二日
 - *青森県・原燃「検出」三日
- 二〇〇七年度
 - せん断日数五六日
 - ベータ線検出日四〇日
 - *青森県・原燃「検出」二〇日
- 二〇〇八年度
 - せん断日数四〇日
 - ベータ線検出日二五日
 - *青森県・原燃「検出」八日
- 三年間合計
 - せん断日数一五〇日
 - ベータ線検出日九七日
 - (せん断日の六四%)
 - *青森県・原燃「検出」三二日
 - (せん断日の二〇%)

この資料から言えることは、使用済み核燃料をせん断すると、せつかく閉じこめられていた放射能が当然ながら飛び出して、一五〇メートルの主排気筒から放出され、クリプトン85ガスは七割前後の確率で敷地や周辺居住区に放射能の雲(プルーム)となつて、押し寄せては去って行ったということです。

広範囲に長時間漂った

せん断中工場周辺の八モニタリングステーションで原燃・青森県が検出とみなした時間数は次の通り。

- 尾駁一七時間、二又一〇時間、吹越一〇時間、室の久保七時間、泊三時間、老部川二時間、千歳平一時間、平沼〇時間

私たちは少しでもピークが現れた場合を検出とみなしていますのでこの数倍の時間、各地で放射能の雲が降りてきたと判断しています。本格稼働になると上記のような割合で周辺測定局に降下すると考えられ、目安になります。

最大値は吹越で

一万二千Bq/m³

最大値は〇七年九月十五日の二時から三時にかけて排気筒から北西約一〇kmの吹越測定局で出ました。これは自然のバックグラウンドレベルの五五〇〇倍のクリプトン85の雲が一時間以上滞留したことを示しています。子どもたちをこのような環境にさらしていいのでしょうか。これでも「一部の測定値に変動が見られたが概ねこれまでと同じ水準であった」とやり過ぎ「いいのでし

ようか。再処理工場は凍結・撤退すべきです。